南紀物語

ほ-0022 堀内家文書
1

南紀物語序

安法冊與志木の國のむかし伊弉冊の尊三熊のゝ有馬なる花の窟より跡垂れ給ひ神武の帝、男の水門より武威を示し玉ふ如き世ゝの帝の御ふる事ハ更也名將賢臣英雄俊傑の跡ゆるハ山嶽河海勝地名區の新古沿革神社佛刹の緣起由來天工人為の殖物名産人情風俗口碑俚言より至る迄ゆるとゆらゆる南紀の物語てふハ世ゝの國史野乘稗官の類擧て數へあさゝ一冊を集めて大成しさるハ天保十年成功の紀伊國續風土記おそ詳からん然ともとも風土記ハ字の如く固より國史より非ものハ沿國經世法度律令世態變遷の事ハ乏且疎ゆゑて綜合通觀しあさゝそのの古きハ豈より際限あらんや而りも敢て要せゞ鬼より角元和のむかしより明治の聖代ゝ至るま

ほ-0022 堀内家文書
1

て二百五十余年間紀州の久天地ハ我ら德川氏ら天朝慕府
より預け玉へる治下ゑ其君を君とし其民を民とし士農工
商皆祖先累世の墳墓地さるゑ相違なくたとへ明治の人と
雖も此範圍は脱せさるべし星移り物變り人文日ゑ開け行
きし今日は幼稚の學童尚世界萬國のさまを掌上ゑ視る如
くならんも所謂燈臺元暗し我祖先の墳墓地ゑ仰きし君々
ハ何と称せられしや我ら累世の生命財産ハいうゑ保護せ
られつゝありしや我ら祖先ハ如何ゑ國事ゑ勤勞鞠躬せし
や空々寂々暗夜も書おらん而して單ゑ德川時代といへハ
一言ゑ頑固不開也壓制暴虐也抔と世間の繰り口調ら專入
固執とあり吾と吾ら不思議の空想ゑ閉鎖せられ永海の
解る日おき如く甚しきハ舊主を目して西東野人視するお

きゑ非ず明治の文明と称すゝきや將さ人類情性の忽ち温
へき處なるや殆と吾人をして解釋の方ゑ迷ましむ畢竟身
當時ゑ在て現活劇を實踐目睹したるゑ非さる以上ハかゝ
る空想ゑ包圍せられつゝ居る亦無理なりといへばいへ責
めてハ自然の人情追遠の德性ゑ面ら苟も紀人乃至他邦ゑ
産るゝも正しく其家累世積墓地ゑ係る真想ハ一應二應知
り得さりとて強ち文明の妨げ處世の害といふゑもならさ
るへく是編者が此編を草せし老婆心と切ゑ讀者の寛假を
乞ふ處也固より不學頑老の拙言鄙語文且章を成さゝる嗤
笑ハ免るべきもあらねど只管叙事の真實正確ゑして平易
通暢を期するゑあれバ幸ひゑ文を以義を害をるなからん
を欲す

ほ-0022 堀内家文書
1

明治三十七年三月

編者誌

例言

國祖南龍公初の國史ハ公家の世記既ニ完備せるものあり
と且二百卷ニ垂んとする大冊如何ニ採要節畧すとも到底
小冊子の及ぶ處ニ非されハ暫く之を他日ニ讓り單ニ筆を
紀州最終の國君茂承公ニ起し國祖以來空前絶後大難至難
の世ニ能く國治を謀らせ以て龍祖が　天朝幕府より預り
玉へる版圖を奉還せらる龍祖ハ之を首ニし公ハ之を終ニ
し以て首尾赫々の國職を盡し給ふ故ニ是之を詳ニ
右の如しと雖も世ニ此の畧皆目掲けされハ明治同胞の紀人
或ハ其起因乃至舊國主の名称さへ恍として知る者なきニ
至らん依て首ニ歷世畧譜を掲け次ニ同事畧を記す

徳川幕政時代ニハ將軍家を公方又ハ公儀と称し（足利時代の遺制也）

ほ-0022　堀内家文書
1

尾州紀州水戸を三家と唱へ田安一橋清水家を三卿と號し三家の支流を連枝といふ皆將軍家最親の公族なれば相互の称敬字を用ひ將軍家尾水両家ハ様字（俗ニヨウト云ヘリ）三卿連枝方ハ殿字（俗ニトノト云ヘリ）を用ひ内外各諸侯ハ對してハ一般殿字を付き是時代慣行の文例也今一公方と將軍とハ様と公ハ更へ諸侯を殿と以て意當時の財政を示さるなり

舊幕府時代ハ勉しく我君主の用具器什官名乃至犬馬ハ至る迄ハ其藩限りなてハ悉く御字を付し職務任免の辞令訓諭布告等皆被仰出と書し逐一欠字唯々崇敬を表しする事各藩共ハ同し今日ハ在てハ頗る忌諱ハ混し且つ迂遠奇異の觀をなさん故ハ皆之を省き單ハ舊君ハ直觸ハ分のみ敬文を用ゆ此書敢て他ハ示を趣旨ハならされむ也

同時代ハ將軍家夫人を御臺所三家三卿夫人を簾中と稱し諸侯の夫人を内室或ハ奥方と通稱一將軍の死を薨去三家三卿を逝去諸侯を卒去と唱ふる法制也

幕府の制度ハ天下大小の諸侯隔年に江戸へ參府を故に一年ハ江戸一年ハ在國也是を參勤交代と唱へ其季節皆定期あり三家加州ハ三月薩州仙臺初大藩ハ四月以下中小藩種々區別ありて最終六月に至る唯佐賀鍋島福岡黑田二藩ハ長崎港警備の任あるを以て十二月（俗ニ百日大名と唱ヘリ）而して藩主在國の時ハ嫡子在府し一ハ互に相交代し夫人ハ三家初一般江戸に住し國に就くを許さず又常府と称し一家ハ依り世々國に発ち南行し即ち水戸家ハ我が西條家水戸の三支流高松ハ外の如く此外尚多し一これハ紀藩ハ丑卯巳未

ほ-0022 堀内家文書
1

酉戌の年三月を以て御参府子寅辰午申戌の年三月を以て
御帰国の定期とあり（尾州は之に反し外信戌皆如此十二支の年割にて参府巳亥の定期あり）此制や
文久二年に至て改革令後三年毎百日を限り在府妻子国邑
へ引取勝手次第とあり是等賛言の如くと雖も如此制度た
るべき事一應稗を待ざれば此事或は了し難き所なり
維新前後迄は固より電信鉄道海陸郵便なし故に江戸より紀
州に至る百五十里陸行十四日飛脚八日を費し（飛脚は夜昼通宵駆逢人を地大事度には三印を所
ト称ス三日三夜又）新聞紙の如き夢にも知らざる時代且秘密を主とし左れば
仮令西天動地の変ありても全く盲聾に異ならず尺咫尚夫程の知
り難き唯浮説訛傳の間に彷徨迂闊を極めしも此書を備く者今
日日露開戦の勝報が一瞬時間に千萬里外の各国に喧傳せら
るる如く眼を以て見せざる其反映大に時の真想を張るの嫌なきに非ず

[illegible]

[illegible]公の紀に於て天下一般の時事を掲げるは尚紀の後の御[illegible]
と雖も其一般の時事即ち直接間接に紀の改革か
関連せざるは公の出事度と紀せる間つうらを之
を洩らさるべうらげにされば廃藩置県後は唯直言以得
て奉公の誠の志を述べ

ほ-0022 堀内家文書
1

南紀物語

德川氏紀勢領地 元和五年八月受領

紀州一圓七郡 名草 有田 海部 日高 那賀 伊都（高野寺領除ク） 牟婁（日高 熊野 奥熊野 二郡ニ分ル）

高三十七万五千石 領分高付村名帳面 村數千二百四十六ヶ村

勢州三領 松坂 田丸 白子 同

高十八万石 同四百八十ヶ村

合高五十五万五千石 村數合千七百廿六ヶ村

但司農府一書ニ技 書ニ村數紀勢都合二千百二十七ヶ村内三百四ヶ村技郷八十六ヶ村新田とあり漸次増加したるものゝ

ほ-0022 堀内家文書
1

紀州越部村土田村鷲家ノ三村南龍公御請願ヨリ也
領地となる其年月事由詳ならず藩ノ御参勤交代及び
藩士往来飛脚（郵便）交通等道を紀州ヨリ川俣街道ヨリ出
州ヨリ入り同國四日市迄ハ他領の人馬且宿泊を要せ
ざる便利の為なり

市街　大町二百四十一ヶ町　小町二百五十八ヶ町　弘化三年改

祖父外記伝録ニ曰く紀州ハ高貳拾万石の地なれ共慶
長年中淺野より検地を入三拾七万石の高ヨリ取立候
由依之長嚴ハ藝備四十二万石殺拝借実事

封域

紀州（北海部郡七川村より東奥熊野二郷村迄凡七十里今凡八十一里余）

南北凡一十里内外

高野寺領（支配ハ奥熊野七内鶏殿平八知行高四百石ノ外
他領十ヶ

勢州　松坂田丸近邊ハ大半領分續き田丸浦方山中松坂
領川端谷長谷街道筋も領分續き
右の外伊子領桑名神宮領藤堂領津久居藩同支藩桑名松平
神戸本多亀山石州狐野土方長嶋増山志州鳥羽稲垣の各藩領と相
互入組一村ハ一ヶ甲乙所領を異にするもあり所謂犬
牙相制するの村ハ一ヶ躰なり
淺野氏の時迄ハ郡ハ莊を號へ莊ハ村を號ふ我封となり
以後莊名を廃して組と又真名称舊よるあり新名を
付するあり或ハ分ハあり或ハ合するあり毎組大庄屋一
人を置苗字帯刀を免す

ほ-0022 堀内家文書
1

元和九年勢州一圓諸御鷹場一里通殺生　勅許なり故之
歴世勢州一圓ハ他領いつきの地と雖り御放鷹自由なり
と所獲之鶴を年々幕府へ献せらる仍て鶴密獵之者を為
見役之者常ゝ探察若し紀則者あきハ他領之者と雖も速
捕處罰し其獵具を没収せられたり維新ゝ至て無論廃止
となる

紀勢戸數人口

戸數

元禄十二年改

百姓家大小合九万四千九百八十軒余　但田邊新宮領分除く

内六万千八百八十軒　紀州　三万三千九百八十八軒　勢州

一本ニ惣計九万八千三百五十三家

内紀州六万九千七百八十五軒　勢州二万八千五百六十八軒トアリ

弘化三年改

市街竈　七千九百拾軒

明治二年十月調

戸數合拾万八千二百四拾五軒　紀州勢州大和共

外ニ五千三百二十六軒　穢多乞食

社家　三百二十六軒　但明治三年三月再調

寺院　二千三百十ヶ寺　社寺等數合三千二百四七ト云

修験　百十一軒

惣計拾壱万六千三百十八戸

人口

ほ-0022 堀内家文書
1

元禄十二年改

紀州勢州　男女八歳以上四十九万四千九百四十人余　但田邊新宮飛地除ク

勢州松坂町　同　月　八千百九十七人

合計五十万〇三千百三十七人　内紀州三十三万六千百十九人　勢州十六万七千〇十八人

天保十年三月改

紀州勢州　男女八歳以上五十八万七千百〇六十七人　内廿九万九千百七人男　廿八万七千九百七十八人女

安政三年三月改

同　男女八歳以上六十万千四百四十七人　内三十万七千七百七十六人男　廿九万三千六百七十一人女

共内譚

紀州分　四十六万四千四百七十一人　内男廿三万八千〇五十人　女廿二万六千四百廿一人

勢州分　十三万六千二百廿五人　内男六万九千三百六十四人　女六万六千八百六十一人

和州分　七百五十一人　内男三百六十三人　女三百八十九人

外ニ幕府御朱印地御田彦領百三十七人　内男六十六人　女七十一人

合計六十万千五百八拾四人

明治二年十月調

紀州勢州大和　男女四十五万八千八百廿六人　内男廿三万二千六百四十六人　女廿二万六千百八十人

外社寺山伏僧尼男女五千七百廿一人

社人百八十七人　修験四十五人

内僧二千八百九十九人　俗七百六十一人

尼百九十二人　女千六百三十六人

織多皂食二万六千〇六十四人　内男一万三千〇七十七人　女一万二千九百八十七人

合計四十九万〇六百十一人

舊幕府制度ハ男女八歳ニナラザレバ人別ニ加ヘズ戸籍調査甚寛ニシテ毎春三月宗門改ト称シ市在共且那

十三

ほ-0022 堀内家文書
1

寺又ハ村役場ニテ人別調印ヲナス男女子八歳ニ至レバ用術其改ヲ受ク是ヲ寺割ト称セリ明治二年ノ調モ

舊制ニヨリ八歳以上ノ改也

士族卒從僕ハ人別改ノ事ナシ唯宗門改証文ヲ出スノミ故ニ前記皆士族卒從僕ヲ加ヘサル人口也若シ之ヲ加フレハ二三万ニモ及フヘシト雖モ其家族等到底今詳ニスルノ術ナシ

剃田彦御朱印地トハ岡ノ宮社ハ有徳公產神ナルヲ以テ御同公幕府御繼統ノ後神主岡本左馬介ハ御朱印地ヲ賜リ爾来世々版圖ノ外トス

穢多乞食ハ從来皮田非人ト称シ穢レ者別種族トス故ニ平民ノ内ニ筭セザリシ也

士族卒

南龍公駿河ヨリ紀州ヘ御入國の時駿河より召連られたる國老安藤水野を初上下の士卒舊記に存するもの左の如し

國老初上下士分　九百三十八人

與力　二百二十二人

徒　百十人

同心　千二百五十人

坊主小人其他輕輩　千〇四十九人但女中共

惣計三千五百六十九人

右禄高

凡四拾二万千九百八十二石現米ニ非ス

ほ-0022 堀内家文書
1

外頭六無之筋　題六の義解しつさし同心組子の者ハ其俸禄を惣拾ひと勘定方ハ其頭の者ハ渡スノ習ひ其名ハ既ニ加筆アレ共其ハ渡シの補ヲ水モトヨリ五義ナラン六隅通書ふるあの暫ク古書の其ヘを掲ク

壱万石余

一四拾三万貳千程

右之内士分ハ駿河越家筋と称し世々特殊の待遇あり又
~~右之内~~東照公ゟ附属セシメラレ紀州ハ扈從シタルヲ御
附人と称し又別遇ありし也其人員左の如し

貳百〇三人　　貞享年中書抜き

又元和五年俸禄高渡帳ニハ左の如記三千五百六十九人
ニ比スレバ千〇三十九人ヲ減ス減者の事由詳ならズ

惣人員　二千五百三十人

内

諸士以上　七百三十五人　　後衆　百十人

与鉄炮ノ者　九百十人　　徒　黒役者諸職人　三十二人

餌差鳥見　三十三人　　坊主　三十一人

小人中間等　六百七十二人　　女中　八人

右ハ御入國其年ニシテ以後龍祖ハ天下豪傑の勇士を頻
リニ徴辟又家臣ノ子弟ニ三男等有為の者を新進家を興
さしめし者勝て數ふべからズ故ニ人員次第ゟ數倍又清
溪公已下世々ゟ於ケル新陳代謝亦不尠と雖も大平無事
自然ゟ因循不断退一進十の風を馴致し近世ゟ至てハ増
倍甚し則左の如し

士分上下　三千五百七十二人　明治二年六月調

卒　手代同心中間共　六千八百六十四人　安政六年調明治二年ノ調不分

天保十五年調ニハ　六千二百四十八人

ほ-0022 堀内家文書
1

惣計一万〇四百三十六人

廢藩置縣後ニ於テ七千士族ノ称あり是ハ明治二年大改革平均禄ノ際國老大禄家の譜代陪臣等を直臣士族トナシ又西條家ヘ附属の者紀州ヘ還籍シタルト及ひ後太政官令ニより卒族（舊手代）ヲ士族ニ編入シタルヲ以ての故ナリ

俸禄（士族卒族）一切

現米二拾二万千二百〇三石　明治二年正月調

知行切米扶持方金給共

金二万三千七百九十四両

慶應元年調ニヨレハ

現米二拾五万五千九百三拾石

右同断

金壱万四千百八十五両

大豆ハ馬飼料ニ下付ス

大豆五百二十三石

右ハ年ニ應シ不同有りし雖も概略両記を標準ニ取て大差なからるべし該石數を高ニ直せバ兎ニ区別あれとも先ツ四ツ免（高百石ニ付四十石ト立）ヲ四ツ免ト（現米高四十石ト立）ニ算し五十五万三千石余（内訳高五万五千石余高）ハ十三万九千八百石余トナル則紀州藩高五十五万五千石ハ全然士を養ふニ充られたり今の人士其父祖苟も舊臣たり一限りハ一人として此禄ニ因て世々生ヒ遂けさる者なろうし

紀州城

名草郡

和歌山城

（和歌山或ハ鄂山又若山ト云弱山ト称スルニ数説紛々鄂山ハ南龍公御入國の初舊名ニより字を改め和歌山ト命ス又一ニ虎伏山竹垣城ト称スとの説ハ皆とも由来詳かならス）

十六

ほ-0022 堀内家文書
1

大和大納言秀長卿（秀吉公弟和州郡山居城）紀泉両國七十万石を領
せらるゝ當り天正十三年其臣桑山相模守重晴（後剃髪果報院ト云）
命を受け和歌山吹上の峯ゝ縄張し同年十一月廿一日
鍬初をなし城を築き同十五年より城代と為て居住せ
是和歌山城の權輿也後慶長五年十月浅野左京大夫幸
長及び舎弟但馬守長晟居城元和元年南龍公御所領
同年八月十三日御入城
一説ニ天守閣二臺ヨリ小ニ方ハ重晴ノ築ク処古
天守ト称ス一城中ニ二臺アルハ唯和歌山城のみ也
云々
明暦元年十一月十九日都筑瀬兵衛屋敷ヨリ出火二ノ丸
延焼一説無事ニ云

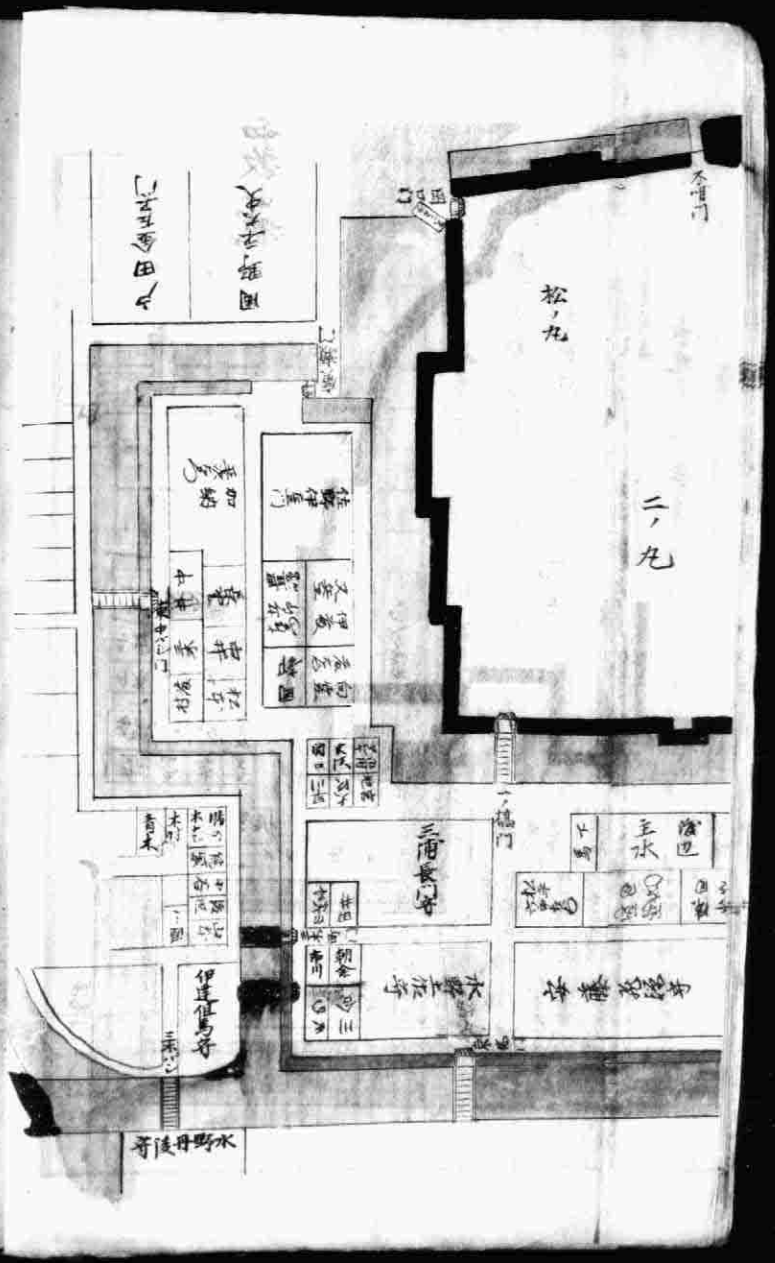
文化十年十一月城内大奥向焼失
弘化三年七月廿六日晝八ツ時過術ニ大雷天主閣ニ落雷
雷炎焼嘉永三年六月朔日再建落成ス
明治四年七月廢藩置縣ニヨリ同年九月十二日城主承氏
公退去元和五年ヨリ二百五十三年間德川氏の本城ト
ス
一城郭ノ面積高度樓櫓壕塹殿舘倉庫書ノ圖傳ラザレ
ハ今詳ナラズ唯概畧ヲ擧クレハ内郭ニハ本丸二ノ
丸西丸砂之丸ヲリ二ノ丸ノ外殿ニハ御座所對面所
大廣間孔雀ノ間柳之間（後御座之）菊之間蘇鉄之間（後鶴ノ間）
中之間鹿之間玄関等ニテ此他ハ諸局宮房廚房ノ如
キ森接寸地ヲ余サズ内寢ノ事詳ナラズ本丸ニハ大

ほ-0022 堀内家文書
1

小天守閣樓櫓水之手櫓西ノ丸ヘ通スル隧道アリト云西ノ丸亦殿舘官房備ル外部内ハ大夫諸士ノ邸宅内郭ヲ廻ラシ手絰横布列ス

廢藩置縣後ハ有形ノ儘陸軍省ニ屬シ廢毀スル處アリシカ大廣間玄関ハ明治十八年大坂鎮臺ヘ移築ト云

ほ-0022 堀内家文書
1



城下

府内凡東西二十一町余南北廿五町雖新前也

諸士屋敷　九ノ内吳吹上字浩廣瀬新堀ニ在ル者凡千二百戸時ヲ増減アリ

屋敷なき諸士凡四百八十戸新ヲ蒙本ト云

安藤帶刀組同心ハ南北田邊町ニ住ス　水野對馬守組同心

ハ南北土佐町ニ住ス　三浦長門守組同心ハ吹上大下屋

敷　久野健之丞組同心ハ鼠登町ニ住ス　水野太郎作村上

伊豫守両組同心ハ久野組ト同所城代組同心六十人ハ

南吹上ニ住ス大番頭組同心二百四十人ハ新堀吳神明

近邊ニ住ス町奉行組同心屋敷なし

留守居番頭組同心同物頭同心旗奉行組同心鑓奉行手

代先手物頭組同心持弓筒組同心五十人者同心共都合

ほ-0022　堀内家文書
1

七百廿人ハ屋敷なし諸士屋敷の長屋借宅又ハ町宅或
ハ年貢地自分(百姓)抱屋敷ニ住ス
神社九ヶ所　寺七十九所外ニ山伏十五六ヶ所
但時ニヨリ少増減アルベシ

田邊城　紀州熊野郡口熊野ト云和歌山ヲ距ル陸二十里今ハ二十五里三十五丁

紀伊國續風土記ニ曰く此地秋津川の海口ニ居りて古の年魚の津也浅野氏封を本國ニ受け八王子(江川浦の北西谷の八王子山)山の記城ト上ノ)の城代浅野左工門佐更ニ江川浦の洲崎ニ城を築き慶長九年之ニ移る同十年八月十二日大風巨濤ニて城破壞を遂ニ更て城を湊村(秋津川の東ニ居る湊村と云川の西ニ居る江川浦と云)ニ築き同十一年湊城ニ移る當城是也城の坤ハ海

ニ面し城の北ニ市廛を開き城の東を諸臣の邸宅と云
元和五年南龍公紀州御受封の時國老安藤帯刀直次ニ来
邑三万八千石(典拠知ヲ此地ニ賜ひ城主とし南方の鎮とし
帯刀部下横須賀組の士三十六人及び家臣を移して守ら
しめ舊規ニよりて擴めて之を大ニし邸宅商屋湊領の地
ニ蔓延戸口繁殖區域彌廣く遂ニ南邊の一都會ニなる
安藤氏ハ代々和歌山ニ居住城代之を守る直次より十三
代飛騨守直裕ニ至り明治元年正月藩屏之列タルヘキ朝
命アリテ國老を離る後府藩縣の三治ニ歸し田邊藩ニな
り明治四年七月廢藩置縣和歌山縣管内ニ屬ス

ほ-0022　堀内家文書
1

新宮城

年表郡ロ熊野ト云和歌山を距ル凡四十五里今ハ五十五里三十三丁

紀伊國續風土記ニ曰く慶長五年堀内書狭守行朝亡ひ淺野家封を本國ニ受て淺野右近大夫忠吉奥熊野を統領を始て地を相して當城を経營をし土功畢さらさるニ元和五年淺野氏封を藝州ニ移さ忠吉し備後三原ニ移る其地周十町許一の小山熊野川の南の海口ニ特起し北の方深淵ニ臨て東大海を眺望し曠野南ニ開け千穂峰神倉の峻嶽西を塞く此地舊ハ東仙宗應の二蘭若の地也淺野氏城を築くの時寺を城西ニ移し其跡を以て城地とし東仙寺ハ源為義の女丹鶴姫の建立ニして山号を丹鶴山といふ故ニ文人當城を名つけて丹鶴城といふと云て

元和五年南龍公紀州御受封之時國老水野出雲守重仲ニ

采邑三万五千石與力共を此地ニ賜ひ城主とし奥熊野の鎮とし水野ニ佐守重上ノ代ニ至り淺野氏の規模を襲き寛文七年閏二月更ニ増修経營し土功を畢ふ城下の内城地東ニ居り其西を諸士の屋敷とし又其西を町家とし此地西田邊城を距ル二十二里半東の方伊勢國堺荷坂峠を去る二十里余北大和國堺十津川を去ル十二里許奥熊の中間ニ在りて郡中の一都會也水野氏を代々江戸常府ニて城代之を守る

重仲ニ十一代大炊頭忠幹ニ至り明治元年正月藩屏之列タルへき朝命ありて國老を離る後府藩縣の三治ニ帰し新宮藩となり明治四年七月廃藩置縣和歌山縣管内ニ属

ほ-0022 堀内家文書
1

勢州城

松坂城 飯高郡

此地元四五百森（ヨイヲノモリ）又曽森又四藺生森夜菴森ニ作ル俗ニ城山ト称スト十りと称す面積凡三千坪余と云フ土地高燥樹木深鬱内海の風景望中み屬す一ニ曰く四五百森ハ意悲神社の邊を総称す神鳳抄載する所四藺生御園の地是也と松坂城の地図ニ四五百森ハ本丸ノ南ノ山東西百七間南北百二十九間高サ六間形樹ノ元ニ稲荷明神アリト記ス元亀元年北畠氏の臣潮田長助始めて城を築く一説ニ長助城を築くの説天正十二年北畠信雄羽柴秀吉と隙アリ秀吉因て蒲生氏郷を以一志郡松ヶ島ニ置く天正十六年四月十八日除目行はれて氏郷正四位ニ叙し権少将ニ任ス四五百社ハ勢州の舊墨地廣く海まつゝき商船ま便也とく松ヶ嶋の居城を此地ま移し大ま壮麗を加ふ松ヶ嶋ニ封をられしよ爵禄加ハり武名盛んま松の字ハ家の吉祥かれハとて四五百社を改めて松坂と名付く是よりして氏郷を松坂少将といふ十八年氏郷會津若松城ま轉を豊臣秀次服部一忠（秀次ノ女婿）をして代ゝ居らしむ秀次の叛を図る一忠赤死を賜ふ文禄四年古田兵部少輔重勝江州日野より移ゝ之ま居る重治ま至り元和五年七月石州濱田ニ國替となる

元和五年八月南龍公紀州及勢州十八万石ま受封まより臣大藪新右衛門井村甚九郎竜泉助左衛門をして古田家の老臣古田家の衛門（助左）ま會まて本城其他侍屋敷等請取し以後仕置を長野九左エ門ま命をられ幕府一國一城の制

ほ-0022 堀内家文書
1

を定めらるる旨一ト。天守門櫓等毀壊を以後世に城代之を鎮
む

松坂城

北　大手口地形ゟ天守臺平迄　十六間一尺
南　四五百家森山切置地形ゟ同断　十三間
東　裏門脇地形ゟ同断　十三間一尺七寸五分
西　留蔡ノ方地形ゟ同断　十貳間七寸

高

三ノ丸東西　二百七十間　内九十七間　二ノ丸　四十六間四尺　本丸分
三ノ丸南北　三百廿九間四尺　内百二十間四尺　二ノ丸　九十間　本丸分
三ノ丸曲輪　十七町二十六間　内七丁三十六間　二ノ丸曲輪　六十六間半　本丸曲輪
此内二棟數十六櫓多門并門共

明治四年七月廢藩置縣ゟより度會縣管内となり後三重
縣ゟ改る置縣後城廢却松坂公園となり古墨今尚存を
明治十七年ゟ至り松阪士民より請願許可を得て松阪
公園地へ南龍神社を建設同年十月落成公家より神鏡
寶劔龍（祖御傳来字國俊）を奉納ゟり士民年々祭祀不絶ト云

田丸城　度會郡

伊勢名勝志ニ曰く田丸城（五丸城ニ作ル）田丸町の西部ゟ在り神
鳳抄載る所玉丸御園の地是也中世ニ至り愛洲氏此ゟ
居る其後北畠政郷の庶長子政勝出て愛洲忠行の後を
承ケ田丸氏と称す子孫相繼て住を應永廿一年九月本宗
北畠滿雅兵を擧け一時其族之ゟ攘り足利氏ゟ抗を具直
一ニ（値昌）ゟ至て天正三年本郡岩手城を築き之ゟ居る既ゟ

ほ-0022 堀内家文書
1

して信雄大河内城より本城に移る是に於て其教及び其族類を殺し遂に北畠氏を滅ぼす八年本城焼失して一志郡細頸城に移る十二年昊直又来て之に居る後蒲生氏郷に從ひ佳奥に移る爾後生駒牧村等諸氏の所管となり慶長五年稲葉道直岩手城より来て之に居る元和元年藤堂高虎の所管となると云々

元和五年南龍公紀州及び勢州の内御受封之時國老久野丹波守宗成に采邑八千五百石を此地に賜ひ熊野の押へ且伊勢大廻守護の鎮たらしむ以後一万六千三百石余に加増八世の孫金五郎に至り明治二年二月藩政革とより田地城市及家禄共還納松坂民政局に属し同四年二月九日城廃毀石墨のみ存せり久野氏八代々和歌山に在勤城代として守らしめたり

紀州家歴世事畧

南龍公

東照宮家康公の御十男にて慶長八卯年十一月七日水戸二十万石御受封同九辰年十二月五万石御加封同十五戌年春駿遠両國に東三河を加へ五十万石を賜ひ大坂冬夏両度の役に御出陣元和五未年七月十九日二代将軍秀忠公の命紀州は上方の要害西國咽喉の地至親を可被差置旨にて長野但馬守長晟紀州一國に勢州の内十八万石を加へ五十五万五千石を賜ひ同年八月十八日御入國若山城御在城也公天資英邁俊秀文武を兼ね玉に極めて倹素を崇め賢を愛し士を恤み諫に從ひ流れを如く満腔の血唯公に奉じ以て則を後昆に垂れ玉ふ實に蓋世の明君に渉らせしは天下普く

ほ-0022 堀内家文書
1

知ル處ニシテ紀州御治世四十九年ノ仁政美擧枚擧ニヽ
ラズ就中絶ヘタルヲ繼キ廢レタルヲ興シ地ヲ拓キ産ヲ殖
シ玉ふもの甚多シ封内至治ノ極獄中一人ノ囚なき事實ニ
一年有余民其德澤ニ感シ薨逝ノ後私ニ祠ヲ建産神ニ崇メ
二百八十六年後ノ今ニ至ル迄村民祭祀ヲ絶タサルモノ六
社トス蓋シ堯舜の治も其歸着全ク之ニちらん古往古來如
此ナル夫レ幾ゝぞ

公子三男五女御二男を頼純君と稱を寛文八年正月於紀
州五万石御分知同十年二月十八日幕府ヨリ伊豫國西條三
万石を賜ひ諸侯ニ列シ松平左京大夫と稱をられ世々紀
州家御連枝たり江戸御常府ニテ渋谷邸ニ御住居也

公ノ御諡(法)初め畧譜ハ前表ニ讓(揚)ケ以已下是ニ倣ふ

清溪公 光貞南龍公御嫡

御四十二歳ニシテ世を継ヲ世られ最御孝順一ツニ龍祖之遺
法を御遵奉尚之を布演擴張せられ諸政の法度律令概ネ此
時ニ成る景ハ力を民治ニ盡シ玉ひ屢黎議訓示を下シ明吏
大鴻律六を擧テ勸農開拓を企図元禄中談有名ナル伊都郡
小田井藤崎ノ大堰を大成万世不朽の民利を遺シ給ヘリ御
年七十六ニ至る御退隱德川退山と稱らる幕府營中杖を免せ
らるゝの優命アリ

公子四男五女アリ御四男頼方君ハ八代將軍吉宗公ナリ

高林公 細教 清溪公御嫡

ほ-0022 堀内家文書
1

知ル處ニシテ紀州御治世四十九年ノ仁政美事枚挙ニいとまらず就中絶ヘタルヲ継キ廢レタルヲ興シ地ヲ拓キ産ヲ殖シ玉ふもの甚多シ封内至治ノ極獄中一人ノ囚なき事實ニ一年有余民其德澤ニ感シ慶逝ノ後私ニ祠ヲ建産神ニ崇メ二百八十六年後ノ今ニ至ル迄村民祭祀ヲ絶タサルモノ六社トス蓋シ堯舜の治る其帰着全くこれニちらん古往古来如此ナル夫レ幾くぞ

公子三男五女御二男を頼純君と称を寛文八年正月於紀州五万石御分知同十年二月十八日幕府ヨリ伊豫國西條三万石を賜ひ諸侯ニ列シ松平左京大夫と称をられ世々紀州家御連枝たり江戸御常府ニテ濱谷邸ニ御住居也

公ノ御誕生初の畧譜ハ前表ニ議掲けし已下是ヲ倣フ

清溪公 光貞南龍公御嫡

御四十二歳ニシテ世を継ぎたまひ最御孝順一ツヨリ龍祖之遺法を御遵奉尚之を布演擴張せられ諸政の法度律令概ね此時ニ成る景も力を民治ニ盡シ玉ひ屢教誡訓示を下シ明吏大鴻律六を撰ミ勧農開拓を企図元禄中諫有名ナル伊都郡小田井藤崎の大堰を大成万世不朽の民利を遺シ給ヘリ御年七十六ニ為御退隠德川退山と称らる幕府營中杖を免せらるゝの優命アリ

公子四男五女アリ御四男頼方君ハ八代將軍吉宗公ナリ

高林公 細教 清溪公御嫡

ほ-0022 堀内家文書
1

御三十四歳ニテ御家督治平既ニ八十年世頃ニ驕奢ニ傾くを以頼りに倹素を奬励し給ふ御治世僅ニ八年寶永二年五月和歌山ニ於て逝去ハ齢四十一

公子なし

深覺公（ジンガク）頼職（ヨリモト）　清溪公御三男

御庶子にして元禄八年十二月十一日從五位下内蔵頭に御任叙同十年四月十一日将軍常憲（綱吉）公江戸赤坂邸に御成（将軍の出駕を賜ひ諸侯に列せらる宝永二年五月高林公御逝去御嗣なきを以同六月十八日入て御遺領襲せらる間なく父君對山公（清溪）御老病之御看護して晝夜兼行帰國し給ふに御旅中の御疲労ゆ終に其九月八日に逝し玉ふ治世漸く八旬御年二十六也天紀國に禍せるの酷一年數月間に大喪を疊る三回高林公及び清溪公也如斯國内に前後絶てなし

簾中公子共ニなし

有徳公（初頼方後将軍吉宗公清溪公御四男）

御庶子中御兄頼職君と同時日に從五位下主税頭將に從四位下左近衛権少将に御任叙又同御成之節新知三万石（越前北庄）郡鯖江御拝領諸侯に列せらる御二十二歳之時宝永二年の秋深覺公俄に御逝去御子なきを以其九月御遺領御相續也公ハ即ち幕府中興八代將軍にして曠世之明君たるハ天下喧傳する處爰に叙述を要を紀藩御治世十二年の鴻猷聖謨實に挙げ盡すべからざる悉く世記にあり公一年三回之大喪

ほ-0022 堀内家文書
1

國帑頓ゑ空耗の跡を承け玉ふ故に首ゑ節儉を励行十年ゑ
して國財の蓄積金庫の脚扨(ヲヲ)碎折ゑ至るといふ御自著政事
鏡政事草の二書ハ實ゑ千古の金縢ならん故ゑ我藩ゑ在て
も亦中興之叡主と崇め後代施政之要一ツゑ範を龍祖と此
公の御遺法誡訓ゑとゝらきさるなし正德六年四月晦日將軍
宣章公薨去(ハ歟ナシ)公召ゑ應し御登營之処天英院尼公
號將軍文昭文昭公の遺命あるゑより入を世を継玉ふべき
旨を傳へらる御固辭容られ(ず)て遂ゑ幕府を継き玉ハり
御年三十三(此時登營歟山ゑ召され又ハ本殿備前直ゑ藩臣上下又ハ和歌山ゑ召されて幕臣トなるとも前後百數人也)
公子五男一女ヲリ御嫡長福丸君ハ紀伊家ニる御誕生正
德六年の八月藩邸ゑ西丸城ニ御引移即ち九代將軍家重
公ナリ

御三男小次郎君亦紀伊家ニる御誕生同年十月幕府ハ御
引移後田安右衛門督宗武と称し中納言ニ任せらる即ち
三卿田安家の御始祖ナリ
御五男小五郎君ハ幕府ニる出誕生一橋刑部卿宗尹と称
し三卿一橋家の御始祖ナリ

大慧公

初松平左京大夫頼致後宗直左京大夫頼純君四男南龍公御孫

公公ハ御支流西條家御相續權少將左京大夫ニるおヒ此し
處正德六年四月晦日有德公幕府御相續ゑより五月朔日幕
命を以紀州家御相續也(御年三十五)公能く先世之治績を奉とられ
最力を國治ゑ勗め玉ふ御初政ゑ於て士民衣服飲食吉凶典
礼の制限令を發布上下の節儉を励行せらる(之を享保令と称し後代節儉

ほ-0022 堀内家文書
1

を令し是は多く南龍公の父母帖を普く封内に頒布して民教を温め廢祠舊跡を興し殖産工藝を奬勵（友ヶ島・熊野人参・白糸・紀州亀綾・紬等の業を勧奬し）豫て文武を振起し就中炮術の如きは親ら指授せらるゝ事の多し享保十八年紀勢封内出害甚しく田穀三十一万五千余石を損ずるに當り大に窮民を賑恤せらる其他の御治蹟歴々多り常に和歌を善くし給ひしが晩年二千首の詠あり寶暦七年七月二日於江戸逝去御治世四十二年

公子六男十女アり御四女嘉姫君は常に讀書を好み婦德を修められ細川越中守宗孝侯（肥後熊本五十四万石）に嫁せられ賢夫人の聞へ高く野史良列傳に詳なり御五女久姫君は英俊男子の風あり松平相模守宗秦侯（因州鳥取三十二万四千石）に嫁せられ

御二男春千代君は即ち御九世香巖公なり

菩提心公（ボダイシン）宗將（ムネ）大慧公御殤

御年三十八にして御家督從来御多病殊に眼疾を患ひ玉ふ故に御帰國麓に一回也世愈昇平にして奢侈風を成し上下頗る窮乏加ふるに公子方多く（御弟妹四方公子十二方）御親族御安覆不數等にて國用節減に汲々せられる公佛學に達せられ書を縮達の悪弊を憎み一書を著し玉ひ看来日蓮宗を禁し公子廟墓の廟塋及び佛堂と天台則上野寺院に定め玉ふ（廟塋は護國院法會八眞如院也・紀州高野山・江戸本願寺・廣中及び公子方は池上本門寺・紀州身延山・江戸本願寺・谷仙壽院等へ移葬多し）明和二年二月廿六日於江戸御逝去御治世九年也

公子九男女余は早世也御四男穀興君は從四位下以將に任叙松平左近將監に称せられ御嫡流に終られる

ほ-0022 堀内家文書
1

は五男ハ香嚴公路西條家御相續左京大夫頼謙と称せら
る最賢明故に香嚴公は養子に定め給へり頼謙君は稲頼
香君亦賢名也余の公子ハ皆他家御相續且御嫁娶なり

觀自在公 重倫 菩提心公は二男

御年二十歳世を継せらる豪邁剛直不世出の御方にて御
挙措往々非凡なる出ツ然れとも御性急劇臣苟も二言不正な
ときは激怒し鞭を時に御短慮なきに非ずを為に羣下大に慄栗
を時の名僧德本行者紀州日高の人に御帰依厚く頗る御自悔の脉
あり御治世十年早く世を遁れ太虚と號せられ和歌山荒濱
の海畔に御幽栖再び御東下なく熊野へ四回御巡行遂に八
旬有四の壽を保せられ文政十二年六月二日和歌山にて御

逝去

公子一男四女余ハ早世は長女懿姫君ハ一條内大臣趙良
公へは嫁し後定一位宣下一條大政所と称す関白の母
儀タルを以て也

香嚴公 和歌浦後治貞 大慧公は二男

寶暦三年西條家は相續松平左京大夫頼淳と称せられる觀自
在公は退隠之時御嫡岩千代君（後藤恭）に八漸く五歳仍て西
條家より入て継ぎ給せられる御年四十八實ハは甥の孫は相續
也天資仁德孝順温良と亜聖の明君なりしかし時の童謡肥後
の鳳凰紀州の麒麟と称せるに至る（當時肥後の細川越中守
重賢侯ハ有名の賢君なり）
（銀壁遺詩）文藩に初已せしより細井平洲（如素先生）を師とし儒

ほ-0022 堀内家文書
1

學ゟ長をゝる御相續といへとも御先代之世子なるを以始終御後見之積我ハ紀州の味噌用人ゟ来ると也と常ゟ仰あり〻と内初政を以の當時國債百七十万金公族二十有余君アリテ數政の至難未タ此時より甚〻きハなしを故ゟ極め〻自奉を節減我ゟ好物ハ冷飯ハ杯豆腐也と夫のミ命をゝれ此燕居之室ハ琉球表縁なし置杯實ゟ庶人も能さきる倹素を思ひをゝれ而〻て老公御養世子公族の上ゟハ百難を排〻て優奉慈遇ゟ〻余念なく臣下の俸給欠損なゝらしめんと汲〻継日も足らさる如く〻苦慮なく〻施政の法一つゟ有德公ゟ做ひをゝらさる文武奬励軍實を撿〻賢を挙け能ゟ任〻殖産工業を興〻德教を普く封内ゟ敷き（藩祖の父母に日ヒ）躍一の（深流）民へ（ゟ）訓書（題）明誠以て庶流を訓導〻給ふ（五倫教解童子訓ハ自著）百般

之美治善政ハ到底挙ケ盡ヘからス然〻て世記ゟ詳也と雖も之を一言ゟ約をれハ天性飽迄御孝順群臣を憐ミ罪ハ罪なきゟ帰を〻め下民を視る一子の如〻といふゟあり然るに天明間前後六年ゟ渉るの大凶荒を来し天下の餓死數十万人と聞ゆ封内亦甚敷如何ン共支〻難く方止を得さる為ゟ〻家中六年間の半知（半知ハ百五十石以上の藩士ゟ半減を乃ち半知ハ百五十石以下ハ藩士ゟ半減なり）を令〻給ふ令出るの日ハ全く余ゟ不德故也と衣を薄ふ〻て寒を忍ひ臣下之俸米下付遅緩と聞召〻てハ朝餐を退け給ふ叢ゟ中風症ゟ罹らさられ〻加養中之〻ゟ勤怠奉行を召〻仰せ事なるゟ〻舌動りて詞ひ兼居〻れハ〻手もて空中ゟ米の字を畫〻て示〻給ふ杯其〻苦心想ふべし此君なり誰ゟ一人君意を躰をさる者ならんや上下欣ゟ率知之

ほ-0022 堀内家文書
1

令を日受有司ハ各郡在々熊野の極僻迫吏を特派し窮民恤救ス全力を盡さり故ス封内一人の餓莩なく隣邦皆紀州の民を羨望せしといふされば德澤封域ス溢き該ハ不緣之時ス
ハ(國也)在士民山川ス走て祈願狂ふる如く少し〳〵癒ハ玉ひ駕を近郊ス試らるし一ニ路傍轉號之乞丐突然驚前ニ大聲歡迄を德化之普及至るる哉寛政元年十月廿六日於江戸ハ逝去ハ齡六十二ハ治世十五年也公詩文和歌誹句をも能くし給ふ時ニ洒落のハ事ハり

公の夫人ハ支藩之時早く卒去ハ十ハ子後ハ再緣なく妾腰更ニ近け給ふ故ニハ子なし御先代之世子岩千代君を
ハ愛撫ハ養嗣ニ立させらる

辭恭公治寶　觀自在公ハ二男

御十九歳ニる香嚴公御遺領繼ぎ給らる公英資明察風采俊偉最學を好ミ給へり其ハ初政ハ未タ半知中ニテ財政ノ困難無論ナレバ御先代ニ倣ひて上下の節儉ヲ一層勵行ありしヲ頼て期ニ及ひ信不可失とて半知を免除ありり有德公の御遺跡傳甫之國校を修築聖堂を新設釋奠を祠堂類ニ勸學令を發せらるしを以て士人の學大ス勸む(初醫學館を創設校江戸邸ニ學校を開設學者を得ル)之ハ外臣堀江平藏の讜言を嘉納直チニ之を樞要ニ援擢諸政改革の重任を一任とし一り士風を正し實習を沙汰し浮置歩增割濟除米の良法を施行以て財政を整理時弊匡救の策周到緻密なり續て享保令ス新條を加へて發布節儉を督勵をらる之を文化の美政と称し後世永く感戴ス

ほ-0022 堀内家文書
1

る處となる公典故格式に御明達親らら秘鑑叙族式を著し
御家範を定め給ふ又官制職名典礼格式都て幕府を准し續
々改正大に面目を改め文物燦然之盛を致さ嘗て鴻儒仁井
田好古和學本居大平等に命じ伊國續風土記の大著述を命し
又礼儀類典の大冊數百を謄寫せしめ文庫を建
らる殖産工藝亦熱心にて京師の名手陶工善五郎吉兵衛
等を召し西濱の園に於て交趾燒永楽燒を製出す交趾燒の
如きハ最精巧本邦無類の名器と世の愛賞する處となる所
謂有名なる所庭燒（薩摩燒）是也又男山燒瑞芝燒之類皆公の
奬励に係る或を京師より織工を召し金襴純子繻珍等の織
物を織らしめ美術を勧誘せり公の多能なして衣紋有職
の事に精通雅樂最も堪能就中琵琶の秘蘊を極め玉ひ京

師に學堂を建て茶道ハ千家子々孫より皆傳のミならず
一子相傳を以受給ひ子々孫の死せる子吸江齋時に八歳傳
法絶んとせるを以て成長を待て後皆傳を賜ふ依て斯道に
於てハ公を傳統の數に加ふといへり文政七年六月六日御
致仕和歌山西濱の別館に退隠之時に御年五十四御治世
三十四年余に退隠後尚政事に配慮之故を以て幕府西二
位に進められ後又従一位に叙し給ふ藩未曾有之特典也弘
化三年将軍家公より高齢を慰し養老資年々金一千両賜て
又金壱万両且年々米一万苞を賜ふ嘉永六年正月廿日西濱
の別館に薨ス壙ハ去年七月嘉永八年十二月

公子二女余ハ早世に嫡男亦早世に二女豊姫君ハ清水式
部卿を以聟養子之襲に長女錯姫君ハ将軍家齊公の三

ほ-0022 堀内家文書
1

男虎千代君ハ聟養子被仰出タルガ間モナクハ早世ナリ

顕龍公

齊順公ハ南龍公ノ養子七世ノ孫

公ハ将軍家齊公ノ文恭御七男ニテ清水家御相續從三位權中将式部卿ニ任セラル文化十三年六月豊姫君ハ聟養子被仰出十一月御引移御婚姻アリ文政七年六月六日御家督御相續時ニハ二十四歳也公明敏聰達士ヲ愛セラル數千の外臣一見能ク真面ヲ明別時トシテ恩遇ヲ賜フ時之恭大君の盛世天下太平ノ極ニ達シ正シク大将軍ノ公子以テ三親藩ニ列セラレ幕府の眷遇赤誠特なるを以將軍の賜物の儀ハ其將軍ニ擬スルモノアリ為威後顕著時俗西公方の秩あるヨ至るされハ諸藩幕府ニ准シ華奢鄭重の風を馴致シ和歌山陵殿の構造ハ殆ト江戸大城ニ擬シ嬖臣頗る多シ然れとも嚴ヨ後宮内寵を遠さけらきしトバ行政の秩序ハ整然たり惣シテ無事平穏之時也シカ湊殿の新造江戸本殿再築燃焼大破ス天保の凶荒ニ貧民救恤江戸西城炎上ノ献金材將軍御成(江戸城炎上ハ絶無將軍御成ハ)等臨時之大費動カラハ國帑頗る空耗屢節倹令を下シテ匡救ヨ汲々ハ晩年ニハ香嚴公舜恭公ノ時ノ如ク節約嚴守きびきの命ハリ清溪公從一位御贈位水戸烈公齊昭の寃を雪き賜フ如きハ公の皆く盡さセ給フ處と云弘化三年閏五月八日江戸於テハ逝去ハ齢四十六ハ治世廿年也此年春ヨハ不預ハ華病ニ當テヤ江戸の群臣微賤ノ徒カ無勤の子弟も期せきして四方の神社佛刹ニハ平癒を祈願奔馳の者日ニ幾百人ヲ不知終ヨハ逝去と聞き厮徒之卒

ほ-0022 堀内家文書
1

も考妣に喪をる如く也しハ編者目睹をる所也

公子皆早世ハ瑞菊千代君（慶福公）ハ乃遺腹故に故將軍家齊公乃せ一男清水中納言公乃養子ナリ

憲章公（齊礒顯龍公）南龍公七世の孫乃養子

公ハ故將軍家齊公の乃二十一男にて後三位清水中納言に御任叙弘化三年閏五月八日顯龍公乃遺領乃相續六月十一日御簾中共に清水館ゟ乃引移同七月廿六日和歌城天守閣燔火にテ燒失（國初以来初テ築城ノ壹也藩府ノ制ノ建築制ノ悪辣巷老公深ニ乃請願乃全部ノ改ヲ以幕府將再建ヲリ）弘化五年三月初て御入國其秋和歌山大風雨洪水八十年以来之水害道を被る比年外國船日本近海に出沒世間海防武備ノ議起リ又上下頃る前世の驕奢に飽キ諸政ノ釐革を望ミ乃入國ノ上ハ安永天明の故ゟ復シ天に節儉ヲ施シ文武奬励あらんゟと私に冀ひ居さるゟ不幸ゟも嘉永二年三月廿七日俄然世を去リ給ふ乃治世僅ニ三年に滿ぬ何之乃暇もなかりし也御齢三十歳

公子皆早世顯龍公乃遺子菊千代君を乃養子に立させら

ろ

昭德公（慶福顯龍公乃遺子）將軍家茂公

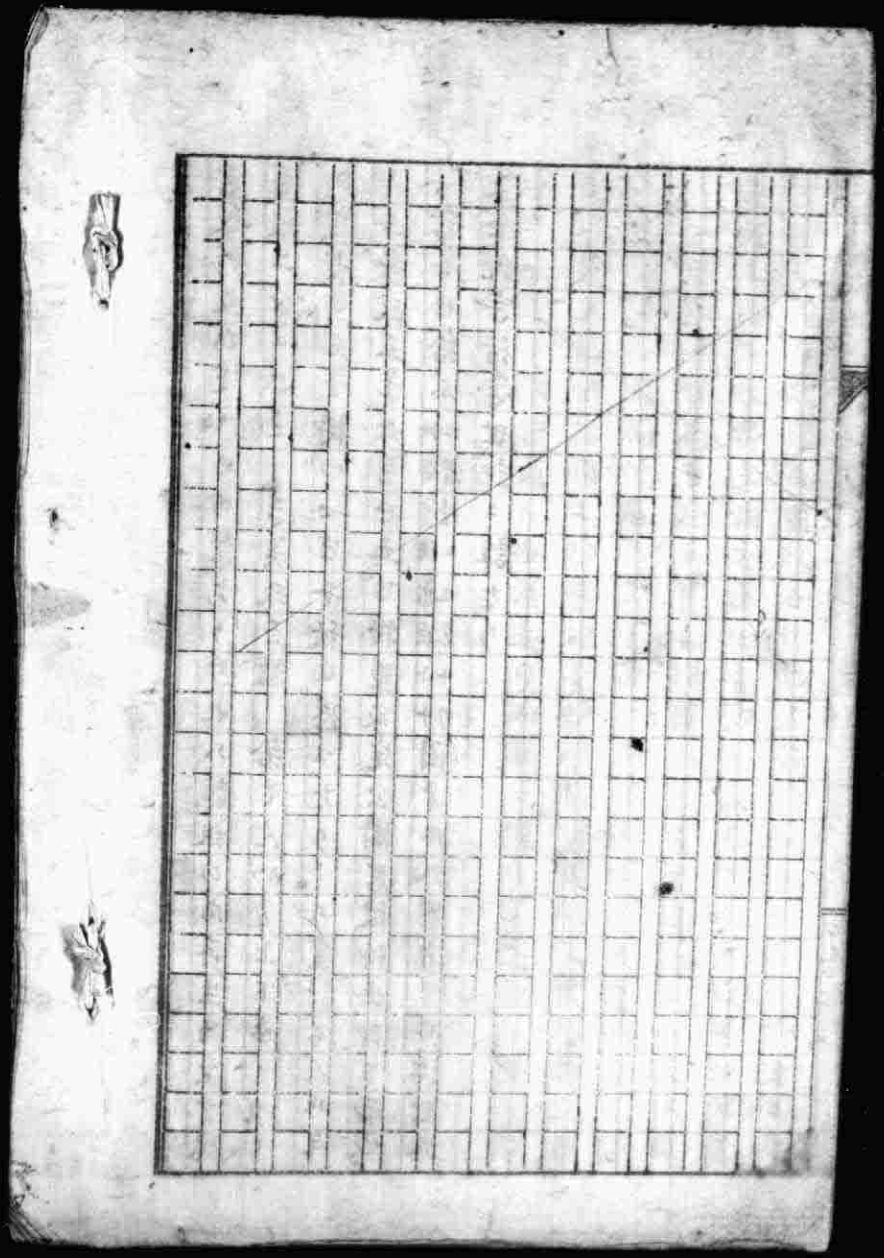
顯龍公乃世子なるも御逝去後に乃誕生弘化四年四月廿二日憲章公乃養子被仰出嘉永二年閏四月三日憲章公乃遺領御相續時に乃四歳也依る乃支流西條侯及ひ水野土佐守安藤飛騨守両老に補育之儀慕命乃リ幕府ゟ對をる件ハ懇ー

ほ-0022 堀内家文書
1

て西隈侯の代理の國政ハ鮮恭老公の在世中ハ勿論治之處
甍逝之後ハ水野土佐守專任さを恰も嘉永六年亜國軍艦浦賀
へ入港和親貿易を迫る實ゑ鎖國以來未曾有ナレハ天下俄
に騒擾海防武備曉眉の急ヲ傳フ故に土佐守英意斷決西洋
砲術練兵紀州沿海之防禦砲臺新築騎戰調練文武場新設等
率先嚴峻に励行或ハ西濱湊の両舘を毀ち官吏初の罰責陶
然を行ひ舊制を廢して藩士を世禄に改む（土佐守免黙復舊ス）而して
歐州各國來て開港條約を迫るハ層一層に頻て値て攘夷
の論激烈ナレハ唯海防武備に暇なくして一藩の振武煥發
に至るハ頗る土州大夫の力也然レ共威權の帰をる處君主
の如く往々專擅の擧なきゑ非ず公の幼と雖も天資絶倫英
邁の五六歳ゑりて驚く可きの御擧措不勘の七歳ゑりて讀

書數行並ひ下すの慧ありけれハ龍祖の再生乃至有德
香嚴に公にひとしき美政を耀し給ちんやと上下擧て唯こ
御成長のみを待つ一日千秋の思ひなりしろ豈計らんの年
十三安政五年六月廿五日將軍家定公儲君被仰出即日西城
へ移ら也給ふ（此時慶喜後幕臣トナリ固より入國なくの治世九名ナリ）
年余御言行等世記に詳なり

ほ-0022 堀内家文書
1



ほ-0022 堀内家文書
1